

R7 年度第 1 回学校運営協議会まとめ

熟議 についてのまとめ

熟議 テーマ	地域とつながる開かれた学校とはどんな学校か？
学校評価部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が「集まる」学校。色々な人に足を運んでもらえる学校。 ・情報を発信することのできる学校。 ・地域の中で児童・生徒が活動や貢献ができる場を作り出すことのできる学校。
地域連携部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に見守ってもらえている学校。またそういう関係のできている学校。 ・地域企業との接点（協力体制がとれている）がある学校。 ・イベント等の発信ができる学校。
安全安心部会	<ul style="list-style-type: none"> ・（シンプルに）保護者や地域の方が立ち寄りやすい学校。コロナ以降は入り辛くなった。 ・校内の子どもたちのことが広く伝わるような情報を発信できている学校。
まとめると	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信を行うことで、地域とのつながりができている学校。 「 情報を発信するための取り組み」 ・また、それにより地域の方や地元企業の方が気軽に足を運ぶことのできる学校。 「 地域の方が学校に足を運ぶことのできるための取り組み」

熟議 についてのまとめ

熟議 テーマ	ではそのために、どんなことができるか？
学校評価部会	<p>【「人が集まる」学校にするために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が何に困っているかを、情報として外に発信すべき。学校が情報を発信し、地域と共有することで、人が集まる学校を作ることができる。 ・外部との窓口の一本化。窓口担当を作るとよい。窓口の担当者が対応することで「開かれた学校づくり」が進んでいく。 ・情報の発信方法として、HP や FB などのデジタルの充実も必要だが、地域性も考えて、回覧板等のアナログも活用するとよい。紙面上に QR コードを掲載し、デジタルに引き込むことでより豊かな情報発信（画像、動画他）に繋がるのではないかな？ ・やはり、野菜や花の苗などの販売を大いに活用したいところ。 ・販売実施曜日？実施日？（毎月第〇曜日など）をルーティン化して、買う側も、売る側である生徒たちも予定が立てやすいようにしたらよい。 ・「 市場」、「 マーケット」などキャッチーなコピーがあると、地域に定着しやすい。 ・最初からきっちりと固めて計画をするのではなく、「気負わず」「ゆるい」取り組みがとても大事！やる前からしんどくなるようなものでは続かない。数年続ける中で少しずつ改善していけばよい。 <p>【子どもたちや保護者が社会に「出ていく」ために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆に、子どもたちや保護者が地域にどんどん出ていけるような場を提供していくことも大切。学校や教員の負担が少ない形で、子どもたちが出かけられる場所や参加できる機会を作る（例えば R5 年度に学運協発信で行った、「子供向け狂言」鑑賞会の招待など）。 ・教員の手を離れて、募集を掛けた団体や保護者の責任のもとで子どもたちが様々な体験ができる環境を作る（紹介する）ことができるとよい。 ・してもらうことに慣れている子どもたちだが、子どもたち自身が地域の中で貢献できる活動（南支援の児童生徒がするボランティア）などもできたらよい。

	<p>【自動販売機の校内設置を考えているが...】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の地域住民の水分確保、保管庫代わりに設置することも提案理由の一つ。設置に対する意見や、ルールづくり等、検討は教員だけでなく保護者にも意見を聞いたらいいのではないかな。 ・色々なことを「地域」「学校」「保護者」が共に考える形で進めていけばよいと思う。
地域連携部会	<p>【「情報発信」と「その方法」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等の情報発信は大切。学校行事の紹介だけでなく、商品の販売や困りごと等の告知情報の伝達が足りないのではないかな？ ・これまでとは違ったやり方で、地域の情報を発信していけばいいと思う。例えばLINEを活用する方法もある。「岡山南支援学校」でアカウントを作り、友達申請してもらえば情報が定期的に送られる仕組みを作ることができる。 ・HPにアクセスしてもらうことで、学校の情報を色々知ってもらうことができる。紙媒体にQRコードをどんどん掲載していけばよいのではないかな？ ・Googleマップの登録をすれば、Googleマップ上に学校の情報を掲載することができる。人の目に触れる機会が増えるのではないかな？ 生徒まで自由に情報を書き込めちゃうので、生徒指導上の観点から運用は難しいかもしれない。 <p>【地域の方たちの接点を作るために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に「見守り役」として普段の活動や学校行事の際に参加してもらう。 ・高等部では、体育の授業でグラウンドゴルフを地域の方と一緒にしたことがある（この時は、内尾グラウンドにいたお年寄りとの世間話が発端）
安全安心部会	<p>【情報の発信について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する理解は、一般に広がっているとは言えない。理解を進めるためには、発信することが重要。発信して学校に来てもらうことも大切だし、コストがかかったとしても学校から出かけて行ったりすることも大切だと思う。 ・公民館は、情報をもらえれば、南区の公民館や興除小学校、公民館だより等で情報を流すことができる。 <p>【野菜の販売を軸に、地域への発信を！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の野菜の販売をして欲しい（かつてはよくやっていた印象だが、コロナ以降はしなくなった）。地域にも宣伝すれば人も集まるのではないかな。 ・昔は歩道にのぼり旗を立てて、それを目印にして野菜の販売をしていた。デジタルもよいが、地域性を踏まえてアナログを取り入れることも効果がある。地域の方が学校に入ってきてもらうためのきっかけを作る必要がある。 ・町内回覧も利用してはどうか。毎月25日までにチラシをもらえれば、ほかのものと一緒に回覧することができる。 <p>【取組を企画するにあたって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな行事や活動も、一年目は「生みの苦しみ」はあるが、2年、3年目は勝手もわかり、分担もしていけば業務も楽になる。「いいな」と思うことは年に1つでも取り組んでいけばよいと思う。児童生徒の「こんなことをしたい」というニーズに沿って、先生方も楽しく取り組めるように。 ・昨年度行った焼き芋体験をさせて欲しい。 ・よいです。今年は風が強く吹く前の11月頃はどうかな？（学校）季節も感じさせたいので今年度も1～2月にできると嬉しい。また相談に乗って欲しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんなふうにも子どもたちを受け入れてくれる場所があることが、保護者としてとてもうれしい。子どもの姿を見てもらえる場所が地域にあることがありがたい。
<p>まとめると</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の発信を行うことで、地域とのつながりができている学校。 <ul style="list-style-type: none"> 「 情報を発信するための取り組み」 <ul style="list-style-type: none"> ・ HP、FB を活用した情報発信。 ・ 子どもたちの様子だけでなく、販売等の告知、ボランティア募集等の呼びかけも。 ・ を活性化させた上で、野菜販売等の情報を簡単に回覧版等にのる。併せて HP に繋がる QR コードも掲載し、他の情報も伝わるようにする。 ・ 地域性を踏まえて、アナログの併用（紙媒体の回覧板、のぼり旗）も有効。 ・ 委員（商工会役員）から出た LINE の公式（ともだち登録してくれた方に定期的に情報が届く）も活用の機会を探る。 ・ また、それにより地域の方や地元企業の方が気軽に足を運ぶことのできる学校。 <ul style="list-style-type: none"> 「 地域の方が学校に足を運ぶことのできるためのきっかけづくりとして」高等部作業班の活動を生かして、地域の方が学校に足を運ぶ機会を作る。 <ul style="list-style-type: none"> 【例えば】 農園芸班では？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業時間内」に校内に野菜の販売所を開く ・ 併せて布工商品、製菓の販売も ・ 販売店の名称等、「自分たち」で「簡単」に「できる範囲内のことを」運営してみる。 ・ 当日は AM 準備 PM 販売 通常通り 14 時には活動終了 【例えば】 布工班では？ <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア、民生員さん等に、現在布工班の教員がしている作業のための下準備をお願いする。 ・ 授業時間内に手技を覚えてもらうのが理想だが、実態や場所の確保から考えて難しいのであれば、下準備の依頼や、下準備されたものの受け取りを生徒に担当させる。 【例えば】 製菓班では？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態や作業場所の狭さから、授業時間内に呼ぶのが難しいなら担当教員が商品開発の協力や作り方を教えてもらうためのミニ研修を行う。 【例えば】 リサイクル班では？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業へ、HP、FB 等で受注できる作業を呼びかける。見つかったら、受注や作業について説明をしてもらう。 【例えば】 総合サービス班では？ <ul style="list-style-type: none"> ・ （「来てもらう」とは逆の案だが）清掃ボランティアの場所を探している旨を HP、FB 等で告知する。 <p>小中学部では、これからしようとしている授業（2 学期以降）において、「外部の方を呼べそうな内容を先生方からリサーチ（6～7 月）し、主幹を通してマッチングを行う（8 月）。具体的な方法としては、地域学校協働活動推進員を経由して、民生委員さんをお願いする、または、HP、FB で募集の告知をする。</p>

第2回学校運営協議会まとめ

熟議 についてのまとめ

熟議 テーマ	「学校自己評価アンケート（保護者・教職員）の結果から」
学校評価部会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と教員の結果の比較は、考察する上で良いと思う。 ・アンケートの項目の構成を整えると分析しやすくなる。例えば、設備や制度面の領域、支援や関わり方などのソフト面の領域、本人の様子や成長などの実態の領域というように整理すれば良いのではないか。 ・回答する側が、その意図に左右されないようにアンケートをする必要があるが、アンケートを作成する側は意図的に項目を整理することで分析がしやすくなる。 ・保護者と教員の間で数値の乖離が見られるのは当然のことである。保護者は言葉をそのまま捉えて回答している。教員は自己分析も含めて回答をしている。 ・「やや当てはまる」の範疇には、「あまり当てはまらない」に近い回答もあるかもしれない。 ・「どちらとも言えない」という選択肢を入れる方法もあるかもしれない。 ・5段階の選択肢を用意している学校もある。 ・文化、芸術、自然に関する領域で乖離が見られることについては、保護者が高評価なのは学校の取組がしっかり伝わっているからだと思う。逆に教職員は目指すところが高いのかもしれない。 ・教職員は現実的に見るので、回答もシビアになる。評価の基準に違いが出てくるのは当たり前だと思う。例えば質問項目22番の「引継ぎ」について、こちらも親が高く、教職員が低くなっている。項目や質問内容を整理する必要があるのではないか。 ・質問の「引き継がれている」の文章を、教職員用は「引き継いでいる」と言うように、受け身的な表現ではなく、主体的な表現で質問をすると回答も変わってくるのではないか。 ・アンケート結果を突き詰めていく取組はどのように進めているのか。 (教職員間で毎年行われる)教育過程の反省の際に合わせて整理、対策方針の打ち出しをしている。 ・保護者の回答率が88%から75%に下がっていることをどう捉えているか。 個人端末による回答と言う方法の変化によるものが大きいと考えられる。
地域連携部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート結果について、分析方法として評価4と評価3に重み係数を付けて分析をしてみたらより詳しくわかる結果が出るのではないか？ ・質問に対する答え方に関して、その人の主幹が入りがちになる。質問に定量(〇回できていたか?など)を入れてみるのも一つの方法だと思う。 ・岡山南支援学校の文化芸術自然に触れる機会について、低いといえど約90%の先生方は満足している。よくなかったと思う先生方はどのように捉えているのか気になる。 ・昨今の教員に対する社会的な風当たりの強さがアンケートの結果の低さ(十分高い数値だが)に影響を及ぼしているのかもしれない。
安全安心部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「情操」って何か。子どもにどんな力をつけさせたいか。を明確にもつことが大切。外部講師を呼べば、校外で活動をすれば、力がつくのではない。現状を分析して、どんな情操教育が必要なのかを見極めること。去年もやったから今年も、ではなく、先生方がモチベーションを高くもち、やってみて、違うと思えばやめたり、変更したりするように。 ・地域資源だけでなく、学校資源もあるのでは？ ・保護者は、季節行事を喜ばれるのでは？地域の方とやり取りしながら進めればよいと

	思う。
まとめると	それぞれの部会が、学校運営を改善するために多角的な視点から現状を分析し、より実効性のある教育活動を目指す姿勢が示されました。 熟議 へ

熟議 についてのまとめ

熟議 テーマ	「学校自己評価アンケートの結果を受けて、残りの R7 年度の実践や R8 年度の実践にどう活かすことができるか？」
学校評価部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員による授業見学会を進めていきたい。 ・ぜひ、他の部会の委員にも見学してもらいたい。 ・見学者の人数が増え、子供たちにとって慣れない環境になるので、見学者のグループ分けなどを工夫して行った方が良い。 ・昨年度も同様の工夫をしているので、今年度も準備をして見学を行えたらいいと思っている。 ・(現在学校運営協議会を通じて取り組んでいる)小学部の授業づくりサポートを継続したい。今の取組を他のクラスの取組にも広げて行けたらいいと思っている。特に若い教員に授業作りの楽しさを感じてほしい。 ・環太平洋大学では、特別支援教育に関するサークル活動も始まっている。絵本のテーパースートを作ったり、ポッチャをしたりなどの活動をしている。 ・絵本の読み聞かせ等はぜひ小学部でお願いしたい。 ・小学部で行った生花の取組はとても良かった。生花は自然や文化とも関連する取組だと捉えることができる。情報発信と言う観点から保護者への理解を進める上でも、例えば Facebook の記事に「#自然」「#文化」などのキーワードをつけて発信すれば、効果的かもしれない。
地域連携部会	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方々に対して理解がある企業とのコラボができないか？卒業生が働いている企業に掛け合ってみてはどうか？ ・地域連携について、岡山南支援学校はたくさんしているように感じている。もっと自信をもっていいのではないかな？
安全安心部会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が求める連携は、小中学部なら日中や放デイとの連携、高等部なら卒後のことがメインになる。相談支援員とのつながりが難しく、その連携に学校が入ってくれたらと思っている。 ・教員の求める連携については、福祉協議会が学校と専門機関とのつながりがもてるように意見交換会の場をつくっている。この内容が保護者にフィードバックできることが今後の課題。進路選択支援制度が変更する時期なので、より難しい。 【防災について】 ・来年度の避難訓練の見学に来てほしい (委員から)平日はなかなか難しいが、何とか実現できるようにしたい。 ・手をつなぐ育成会でも防災のことは話題に上がっている。 ・高等部の地域への販売等で、学校にきてもらうことは、防災の面でも大事なことで、どんどん入ってもらったらいいのでは。外部講師も含めて、学校に入ってもらうことで、教員が気付きにくい新たな視点にも気づいてもらえるかもしれない。
まとめると	<p>【学校評価部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携強化や委員による授業見学の実施

・さらに SNS を活用した効果的な情報発信

【地域連携部会】

・地元企業との協力体制の構築や、地域社会とのさらなる結びつきの強化

【安全安心部会】

・保護者と専門機関をつなぐ支援の充実

・防災対策を強化するための地域住民との交流（避難訓練への地域住民の参加）

第3回学校運営協議会まとめ

熟議 についてのまとめ

熟議 テーマ	<p align="center">「学校自己評価アンケート【まとめと考察】」 「R8学校経営計画・目標グランドデザイン」を受けての意見交換</p>
学校評価部会	<p>教職員の働き方について示された箇所に意見が集中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(教職員にとっての)チームワーク、助け合いなどにおいて、それぞれ個人で解釈が違うので、言葉の定義は必要かもしれない。 ・(教職員は)お互い分かり合って共有できるかが大切。 ・心理的安全性についても、授業を見させてもらって、自信を持って指導に当たっている教師ばかりではない印象がなんとなくある(明言はできないが)。 ・主指導、副指導の立場で捉え方は違う。連携して授業を行うには視点や動きを共有していく必要がある。全ての共有は難しいが、どの要素を押えるかは確認していきたい。 ・教職員の状況についても、場や時間を捉えて早めの対応が大切で安心感につながる。
地域連携部会	<ul style="list-style-type: none"> ・(他校校長の立場から)示された内容は、どれもよい。「ジェントルティーチング」「心理的安定」など、学校として「これがやりたい!」をはっきりさせていることが大切だと思う。子どもの教育に対して時間をかけて失敗を恐れずに先生方には取り組んでほしい。 ・(地域福祉の立場から)やろうとしていることは、学校も福祉も同じ。しかし、やりたいことが絵に描いたモチにならないようにしたい。言葉だけだと、人それぞれの捉え方があるので定義や説明が必要だと思う。思いを一つに集約することで実現に近づく。 ・(企業の立場から)どうあるべきかのゴールが「学校教育目標」だと思う。校長先生の示された「R8年度の4つの柱」は方法であって目的ではない。M V V(ビジョン ミッション パリ्यू)は企業経営の核となる3要素であるが、パリ्यूだけ話し合っても解決しない。ビジョンだけ話しても絵に描いたモチ。数字を裏付けるだけの根拠をもって学校教育目標を達成する必要がある。
安全安心部会	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちはいつ休んでいるのか、忙しそうだし、以前に比べると心配りするところが増えたように思う。社会情勢や支援等も年々変化していて、その対応も必要で、とにかくやらないといけないことが増えている。 ・退勤しても、自宅に仕事を持ち帰られている先生もいるのではないかと。先生たちの心の安定のためにもスイッチのオンオフが大切になる。 ・学校は、地域や社会とつながろうとするが、頼るのが苦手。書類のやり取りや気を遣うこともあるかもしれないが、まずは頼ってみればいいのか。

熟議 についてのまとめ

熟議 テーマ	<p align="center">熟議 より「教職員にとってのいきいきとした職場づくりのために、 学校運営協議会のメンバーとしてできることは？」</p>
学校評価部会	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は何に困り感を感じているのかを探り、自信を持って仕事ができる環境を整えていけると良い。 ・今年度は、生け花や読み聞かせなど、担任の要望に応じて外部講師を紹介する実践ができてよかったと思う。来年度も先生方のサポートをしていきたい。 ・意識の高い教員の動きや視野を他の教員も共有して、地域資源の活用が広がると良い。
地域連携部会	<ul style="list-style-type: none"> ・県全体でいえば100人くらい講師が足りないとも聞く。地域ボランティアやサポーター

	<p>の活用を進める。教師の休憩時間はしっかり確保したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くのことが教師に求められ過ぎたと思う。しんどさは多くの教員が感じていると思われる。 ・教員の「スキルアップ」と「心理的な安定」とのつながりの見えなさがあるのではないか？
安全安心部会	<ul style="list-style-type: none"> ・担任として、新しいことに取り組みたいと思うと、勤務時間が長くなったり、つい家でも授業のことを考えたりしている。 ・「好きでやっている」これが一番すてき。これは「ブラック」ではない。 ・保護者からすると、好きなことをやってみようと思われている先生に担任をしてもらえるのは幸せなこと。ただ、キャパオーバーしているのではないか？ 疲れているのではないか？ と思う先生もいる。電話の声で心配してしまうこともある。 ・学校評価アンケートの結果を、年代別にわけて分析をしてみれば見えてくることがあるのでは。キャリア年数等で分析する中で、仕事をマイナスにとらえている年代がどのあたりかも見えてくるし、そこから、先生方をどう配置してどう活躍させるのかを考えるとよい。